

CRF1000L Africa Twin のスタイリングデザイン

Styling Design of the CRF1000L Africa Twin

小 松 昭 浩*

Akihiro KOMATSU

桂 川 碧*

Midori KATSURAGAWA

要 旨

CRF1000L Africa Twin は、大型オン／オフロードモデルとして新たに開発された。このモデルは、1988年にデビューし名声を博した、XR650 Africa Twin に始まるシリーズに対する、12年の時を経たのちの後継機種として開発された。このモデルをデザインするにあたり、一目で Africa Twin だとわかるということや、最新のレーシングマシンが持つ技術の流れを感じさせることをコンセプトとした。このコンセプトのもと、スタイリングデザインにおいては、車両全体のデザインとともに、フェアリング、フューエルタンク、ヘッドライト、メータなどのディテールにわたって、全身機能美の表現を実現し、Africa Twin としての個性を際立たせた。また、カラーリングにおいては、「Africa Twin ブランドの再興」をコンセプトの根幹に据え、トリコロール、CRF450Rally カラー、スタンダードカラー、それぞれに個性を持ったカラーリングをそなえることで、伝統、先進、そして顧客ニーズにバランスよく応えることを可能とした。これらスタイリングデザインとカラーリングにより、伝統的な Africa Twin スタイリングと、最新の技術に裏付けられたラリー向けレーシングマシンのスタイリングの融合、という所期のデザイン目標を成立させた。

ABSTRACT

The CRF1000L Africa Twin was developed as a new large dual sport motorcycle. After a 12-year absence, this model was developed as a successor to the Africa Twin series originating from the XR650 Africa Twin, which made its debut in 1988 and became famous. The concept in designing this model was to make it immediately identifiable as an Africa Twin and to convey the trends in latest racing machine technologies. Based on this concept, the styling design embodies functional beauty throughout the vehicle, not only in the overall appearance, but also the details including the fairing, fuel tank, headlights and meters, to highlight the distinct personality of the Africa Twin. Additionally, the revival of the Africa Twin brand is placed at the core of the concept for colors, and each of the color variations provided—Tricolor, CRF450 Rally color and Standard colors—have distinct personalities to strike a balance in carrying on its heritage, demonstrating advancement and responding to customer needs. Through this styling design and color scheme, we have achieved the desired design goal of fusing the classic Africa Twin styling with the styling of racing machines backed by the latest technologies.

1. はじめに

CRF1000L Africa Twin (Fig. 1) は、Honda が大型オン／オフロードモデルとして新たに開発したモデルである。

Africa Twin という名称は、Honda のオン／オフロードスポーツモータサイクルの中で、1978年よりアフリカで開催されていたパリ、ダカールラリーに端を発するモデルに付けられたものである。

1988年にデビューした初代 XR650 Africa Twin

*二輪 R&D センター

(Fig. 2) は、1980年代に Honda が投入したワークスレーサ、NXR750 (Fig. 3) のイメージで作られた。実際にラリーに出場できるオフロード性能と、フルフェアリングを付けたユニークなスタイリングで、多くのファンを魅了した。実用面においては、スポーツモータサイクルの本場である欧州での、長距離を高速で快適に移動するというニーズに合致した。さらに、各メーカを巻き込み、フルフェアリング付き大型オン／オフロードスポーツモータサイクルというカテゴリを生み出すにいたった。

その後、さらなる大排気量化、高速化が進み、各社さまざまなラインナップを展開する中、Hondaは、実用面、オンロード性能を重視した、XL1000V Varadero(Fig. 4)やVFR1200X(Fig. 5)をリリースした。一方、この大排気量化が進む中、2003年にAfrica Twinは生産を終了した。



Fig. 1 The CRF1000L Africa Twin



Fig. 2 The XRV650, the first generation Africa Twin launched in 1988



Fig. 3 The NXR750, 1987 Paris Dakar Rally model

近年では、大排気量ツアamodelの市場も成熟し、さらに再びオフロードも楽しめるモデルへの注目度が高まり、Africa Twin復活を望む市場の声がこれまでも増して高まってきた。

10年以上の歳月を経たのち、現在の市場に向けてAfrica Twinの復活を検討するに当たり、まずは何が必要なのか、何を求められているのか、について考察した。その基礎とすべく、主要市場であるドイツ、フランス、イタリア、イギリスで市場調査をおこない、開発するモデルの基本となる考え方について検討を重ねた。その結果、New Africa Twinは、「どこにでも行ける」本格オフロードモータサイクルでなければならないという結論にいたった。

そこで、我々開発チームは、New Africa Twinの開発コンセプトを「Go anywhere 日常のコミューティングから広大な夢の大地を走破できる、本格アドベンチャーモデル」とした。そのコンセプトにふさわしい、冒険心を刺激するスタイリングデザインの実現が不可欠な要素となった。本稿では、そのスタイリングデザインのコンセプトとその実現手段について述べる。

なお、本稿ではCRF1000L Africa Twinを本モデルもしくはNew Africa Twinと呼び、XRV650 Africa Twinは初代、XRV750 Africa Twinには先代を付けて呼ぶこととする。



Fig. 4 The XLV1000 Varadero, launched in 2000



Fig. 5 The VFR1200X, launched in 2010

2. スタイリングコンセプト

歴代モデルのユーザや、歴代モデルにあこがれを抱いて育ってきたお客さまには、かつての Africa Twin への強い思いがある。前述の調査結果でも、お客さまは、一目で Africa Twin とわかるスタイリングデザインを望んでいることがわかった。

その一方、スポーツモータサイクルのトレンドとして、最新のレーシングマシンが持つ技術、特色との関連性を求められるという一面もある。それは最新技術を所有することにあこがれるユーザ心理からである。Honda は 2013 年より、ダカールラリーに復帰、参戦している。その参戦車両である、CRF450Rally (Fig. 6) のスタイリングは、まさにそのカテゴリにおける最新トレンドである。

初代 Africa Twin (Fig. 2) のスタイリングは、80 年代に活躍したワークスレーサ、NXR750 (Fig. 3) をイメージしたものである。NXR750 は、当時のラリー競技における走行ステージの条件から、車体は大柄で頑丈に、また、ライダーや機能部品をプロテクトすることを優先して設計されていた。例えば、フューエルタンクは、長距離走行を可能とする大型のものが用意され、また、フェアリングは、ライダーを走行風から守る大きなものが用意され、これらは Africa Twin のアイコンとも言える存在感を示していた。さらに、ヘッドライトは、過酷な夜間走行でも視界を確保する、大型の 2 眼タイプのものを採用していた。これらのデザイン要素により、広大な大地を走り抜け、高速で長距離を安心して走ることができるというイメージが実現されていた。

一方、ダカールラリーは、2009 年以降は南米開催となり、かつてのパリ、ダカールラリーとは、走行ステージの様子が大幅に変わった。そのため、参加車両である CRF450Rally は、スリムで軽量、コンパクトなものとなった。また、技術の進化に伴い、ヘッドライトをはじめとする各種機能部品の小型軽量化も進んだ。大容量のフューエルタンクも、4 分割されて車体に収まり、目立たなくなった。また、メンテナンス時間短縮を目的に、機能部品のカ

バー類は省略される傾向となった。そのため、デザインの上でも、山岳地帯の険しい道でもものとしめない、本格的オフロード性能を持った、フットワークの良さを感じさせるイメージの実現が求められた。

新しい Africa Twin をデザインする上で、これら二つのイメージは、いずれもの重要な要素と考えた。すなわち、伝統的な Africa Twin のスタイリングと、最新のラリー向けレーシングマシンの持つ機能、技術に裏付けられたスタイリングの融合が重要であると考えた。そして、これを新時代の Africa Twin のスタイリングコンセプトの根幹として定めた。

スタイリングコンセプトに沿って描かれたデザインスケッチを Fig. 7, Fig. 8, Fig. 9, Fig. 10 に示す。



Fig. 7 Concept evolution sketches



Fig. 8 Sketches to realistic proportions



Fig. 6 The CRF450Rally

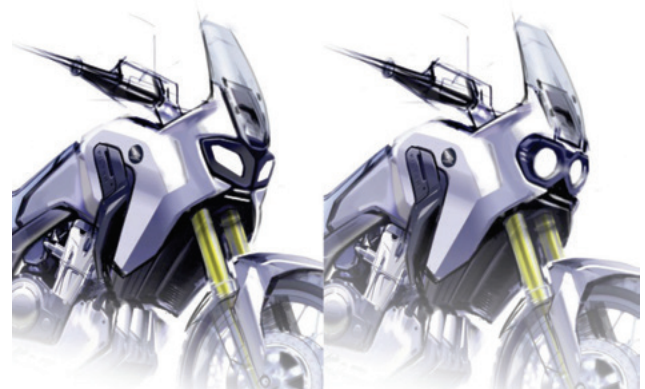


Fig. 9 Design sketches of face part of the vehicle



Fig. 10 Rendered image of the final design of the new Africa Twin

3. 具体的なデザイン手法

二輪車のスタイリングデザインには、大きく分けて二つの要素がある。一つは車体全体のイメージを決めるバランスやプロポーション、ボリュームの構成である。もう一つは個々のパーツデザインにおけるディティールや質感の表現である。その二つの要素が互いにハーモナイズすることで、全体のデザインが成立する。

3.1. 全体イメージ

まず全体イメージについて述べる。本格的なオフロードバイクは、荒れた路面であっても、優れた運動性能によって走破するイメージを持っている。そこで、マスの集中と逆三角形のフォルムという、前出の CRF450Rally をはじめ、Honda のモトクロスレーサに用いられる手法を取り入れた。また、オフロードモデルとして不可欠な、ロングストロークサスペンションを、運動性能を強調した足長のプロポーションとして活かした。先代 Africa Twin とのプロポーションの違いを、Fig. 11, Fig. 12 に示す。

全体のボリュームに関しては、ライダーに安心感を与える一方で、重そうで扱いづらいと感じさせない大きさを、開発チームメンバーのさまざまな視点を通して設定した。例えばシート形状は、アクティブなライダーの動きを妨げない形状でありながら、十分なサイズとすることで、快適性と見た目の躍動感を演出した (Fig. 13)。

さらに、フェアリングは、さまざまな体格のライダーが自由に操れると感じさせるコンパクトさを実現しながらも、走行風や砂埃など、走行を妨げる要素を防いでくれるという、安心感を与える大きさとした。

3.2. ディティール

次に、ディティールについて述べる。ディティールの処理では、どこの部分のデザインについても機能美が感じられる、すわなち、全身機能美をテーマとした。具体例を以下に示す。

(1) フェアリング フェアリングは、フロントオーバーハングをできるだけ切り詰めた。これによって、マスの集中による運動性能の確保だけでなく、(車両全体を俯瞰したときの印象) 見た目の印象においても、躍動感ある軽快さが表現されている。短いオーバーハングを実現するためには、フロントスクリーンの角度が、切り立ったものにな



Fig. 11 Proportional scheme of the previous model of the Africa Twin



Fig. 12 V-shape proportional scheme applied to the new Africa Twin



Fig. 13 Streamlined seat shape that helps smooth actions of a rider

る (Fig. 14). さらに、その影響でフェアリング内の負圧が大きくなり、ライダーの姿勢保持に影響をおよぼす。この作用を抑制するために、スクリーン下方にエアダクトを設けた。これにより、軽快なスタイリングを実現しつつ、快適な乗車空間を提供することができた (Fig. 15)。

(2) フューエルタンク 歴代モデルでは、車体サイズに対して、通常よりも大きな比率のタンクが、タフさと長距離走行可能というデザイン上のイメージも演出してきた。すなわち、存在感のある印象を与えるフューエルタンクは、Africa Twin の重要なアイデンティティの一つである。New Africa Twin の開発においては、長距離走行性能に加えて、優れた運動性能の実現も求められた。すなわち、タンク形状には、ライダーの動きを阻害しないスリムさが求められていた。本モデルでは、エンジンレイアウトが、V-Twin から並列 Twin となったため、タンク下方への容積拡大が可能となった。そこで、サイドビューでは大きく見せながらも、スリムなタンク形状を実現できた。これによって、フューエルタンクのデザインにおいても、従来からの Africa Twin のアイデンティティを守りつつ、優れた運動性能の実現をはかることができた。

(3) ヘッドライト ヘッドライトは、二輪車のフロント周りをデザインする上で重要な要素の一つである。



Fig. 14 Fairing with wind screen with a steep angle



Fig. 15 Air streams around the fairing and the rider

Africa Twin の場合、左右対称の丸型2灯式ヘッドライトが、目としての存在感を印象づけていた。しかし、本モデルで採用した薄型LEDヘッドライトの構造上、照光部分はほぼ半円となり、その面積も小さくなった。そのため、目としての存在感が薄れてしまった。そこで、不足した目としての存在感を強めるために、シグネチャーライトを下方に配置し、円周の輪郭を強調した。これによって、新技術であるLEDを採用しつつも、New Africa Twinとしての個性であるヘッドライトによる目の存在感をアピールすることを実現できた (Fig. 16)。

(4) メータ Africa Twin は、ラリー車としての血筋を持ち、乗る人にラリーが与えるさまざまな状況変化に素早く対応する緊張感をかもし出すデザインが求められる。そのため、最新のラリーレーサに採用されるメータのデザインを適用した。すなわち、情報を上下方向に配置、表示し、縦長のものとした (Fig. 17)。これにより、左右に生まれる空間から前方の視界が確保され、刻々と変化する路面状況が把握でき、オフロード走行における状況確認が補助さ



Fig. 16 Headlights and signature accent lights that emphasize the impression of round edge lines



Fig. 17 Vertically long-sized display unit with information display stack

れる。また、本モデルでは、通常の二輪車で必要とされるもの以外に、多くの情報を表示する必要がある。それらには、Dual Clutch Transmission(DCT)、Selectable Torque Control, Antilock Brake System などの状況を示す情報がある。したがって、多くの情報を、状況や優先順位に合わせて、走行中にわかりやすく表示する必要がある。そのため、頻繁に確認が必要な情報を上から順に配置した。さらに、表示の切換えスイッチを手元に配置し、グリップから手を離すこと無く、さまざまな情報の確認を可能としている。このメータデザインにより、ラリー競技に出場するような臨場感や高揚感をライダーに与えるという、Africa Twin が持っていたデザイン的特色を継承した。

以上に述べたディテール部分のデザインにより、ねらいとしていた全身機能美の表現を実現でき、Africa Twin としての個性を際立たせることができた。

4. カラーリングデザイン

4.1. カラーリングコンセプト

モータサイクルのカラーリングとは、そのモデルのコンセプトを瞬時に伝えることができる、重要な要素である。

Africa Twin と冠される本モデルにおいて、カラーリングコンセプトを設定する際に、何を一番に表現するべきかを考察した。

まず、新しいモデルであるということを前面に出し、これまでにないまったく新しい世界観のカラーリングによる訴求を行うことも考えた。しかしながら、今回のターゲットユーザについては、旧モデルをずっと大切に乗り続けて来られたお客さま達の存在も大きい。また、スタイリング全体のコンセプトに沿った、Africa Twin ブランドの継承という視点も重要である。したがって、カラーリングにおいても本モデルが Africa Twin としてのアイデンティティを維持し、また、これまでに Africa Twin というモデルが築き上げてきたブランド性を受け継いだ、次の世代のモデルであることを表現すべきだと考えた。このような背景から、「Africa Twin ブランドの再興」ということをカラーリングコンセプトの根幹に据えることとした。

4.2. ログタイプとグラフィックライン

全バリエーションに共通するログタイプのデザインは、初代 Africa Twin が持つ、ブラッシュストロークのような勢いのある表現や、エネルギー感を継承した。加えて、シャープでエッジの効いたデザインとすることで、現代的なテイストを感じさせるログタイプへと進化させた。車体側面に大きくログタイプを入れることによって、ダイナミックで力強い Africa Twin らしさを表現した (Fig. 18)。

また、車体に入れるカラーグラフィックのラインは、マスの集中化によって新しくなったスタイリングを強調し、

視覚的相乗効果をねらった。

以下、カラーリングのバリエーションごとに、その手法について述べる。

4.3. カラーリングの三つのテーマと手法

(1) トリコロール Africa Twinであることを一番に感じさせるカラーリングとは何か、という問いに対し、我々デザイナーの答えは、赤、青、白の、トリコロールであった。

トリコロールは、1986 年からパリ、ダカールラリーで 4 連勝したワークスレーサ、NXR750 のレプリカモデルである初代 Africa Twin, XRV650 がもっていたカラーリングである (Fig. 2)。欧州では、Africa Twin = トリコロールというイメージが、広くお客さまの間に浸透している。そのような背景のもと、本モデルのコンセプトを強く市場に印象づけることをねらい、このトリコロールを Africa Twin ブランドの再興の象徴として設定した (Fig. 19)。



Fig. 18 Logotype designs of the first generation Africa Twin and the new Africa Twin



Fig. 19 The new Africa Twin in Tricolor color scheme

初代の XRV650 トリコロールは、すべてソリッドカラーによって構成されていた。本モデルのトリコロールでは、1000 cc クラスならではの高級感、上質感を表現するために、色合いに深みがでるパールやメタリックカラーを採用した (Fig. 20)。また、トリコロール仕様専用のパーツ色を設定することで、初代 Africa Twin のコンセプトを強調し、かつ特別な仕様であることを印象づける演出をした。

- ・ゴールドのリム
- ・ゴールドのハンドルバー
- ・白いナックルガード
- ・赤いリヤサススプリング
- ・青いハンドルウエイト

これらは、どこから見たときにも、New Africa Twin のトリコロールであると認識させるための要素として、デザインイメージの訴求に大きく寄与している。

(2) CRF450Rally カラー Honda は 1989 年の参戦を最後に、当時のパリ、ダカールラリーにおけるファクトリー活動を終了したが、2013 年より 24 年ぶりにダカールラリーへ復帰した。最新のアドベンチャーモデルの象徴であるという存在感を示すために、現在のダカールラリーへ参戦しているワークスレーサ、CRF450Rally (Fig. 6) のカラーリングを取り入れた。

本カラーリングは、ラリーレーサの持つ勢いを全面に表現することを念頭に置いてデザインされた。現役のレーサモデルがかもし出すスポーティな印象を持たせるため、すべてをソリッドカラーでコーディネートした (Fig. 21)。また車体全体に亘るカラーリングで勢いを表現するために、フロントカウルから始まる白いラインを、シートサイドまで延長させた (Fig. 22)。しかし、柔らかいシート素材にシャープなラインを施すため、シート表皮の合わせ部分や、車体外装部品とシートの合わせ部分などで、ラインがずれることなく配置されるように工夫するなど、技術的な

ハードルが高かった。しかし、勢いや流れを表現するために、この白いラインは欠かすことができなかったため、この技術的課題を乗り越えた。その結果、このラインの効果を活かすことに成功し、ラリーレーサとしての勢いを、車体全体で表現できた。

(3) スタンダードカラー 現在、欧州を中心に、大型のオン／オフロードモデル市場が順調に推移しているため、こうした市場に向けたカラーリングも設定した。先に述べた二つのカラーリングのように、特定のイメージにとらわれず、幅広いライフスタイルの指向を持つお客様に対して訴求可能な、スタンダードカラーである。通勤で大型オン／オフロードモデルを軽々と乗りこなすビジネスマンや、揃いのウエアでツーリングを楽しむ大人のユーザを意識してデザインをおこなった。大人の持ち物にふさわしい金属感の表現や、都市の風景の中での力強い存在感、また、旅先の古い街並みにも自然に溶けこむデザインであることを考慮して、シックな色調やボールドな印象の色調で構成した (Fig. 23, Fig. 24)。これによって、本格的なオフロード走行も可能な、大人のツアラーとしての新しい価値を提案した。



Fig. 21 The new Africa Twin in CRF Rally color scheme



Fig. 20 Contrast in brightness by metallic colors applied to the painted areas and the stripes



Fig. 22 The white stripe stretches on to the seat side



Fig. 23 Standard color option: Digital silver metallic



Fig. 24 Standard color option: Matte ballistic black metallic

5. まとめ

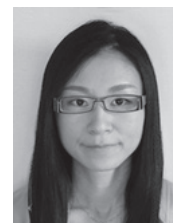
本モデルで一貫して目指した、伝統的な Africa Twin スタイリングと、最新の技術に裏付けられたラリー向けレーシングマシンのスタイリングの融合、というテーマを成立させるために、全体バランス、ディティール、カラーリングという観点で多角的にアプローチした。

その結果、本モデルは多くのお客様に「これは明らかに Africa Twin であり最新のモデルである」と認めていただくことができた。2015 年 12 月の発売開始より、日本、欧州、米国で多くのお客さまより好評を得ており、Africa Twin の復活という、当初の目的を達成できたと感じている。本モデルも、先代モデル同様、末永くお客さまに愛されるモデルとして育ってほしいと願っている。

■ 著 者 ■



小松 昭浩



桂 川 碧